

商業・貿易・金融

卸売・小売業

平成19年6月1日現在（商業統計調査）の卸売業の事業所数は4,136事業所、従業者数は3万2,446人、年間商品販売額は2兆79億円となっています。前回調査の平成16年に比べ、事業所数は243事業所（5.5%）の減少、従業者数は1,233人（3.7%）の減少、年間商品販売額は49億円（0.2%）の増加となりました。

一方、小売業の事業所数は、1万7,466事業所、従業者数が11万2,723人、年間商品販売額は1兆9,325億円となっており、前回調査時と比べると事業所数は1,420事業所（7.5%）の減少、従業者数は326人（0.3%）の減少、年間商品販売額は917億円（5.0%）の増加となっています。

図35 卸売業の推移

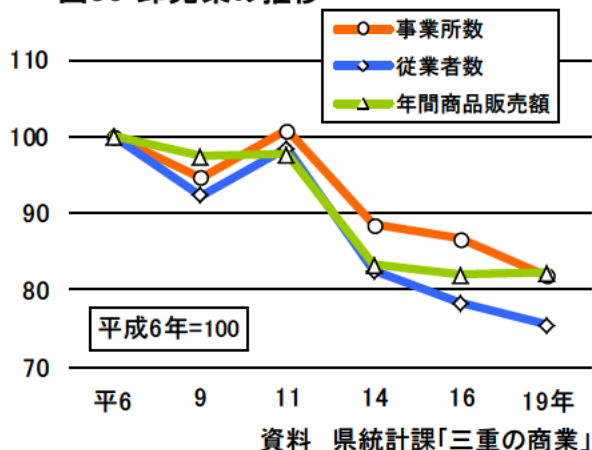
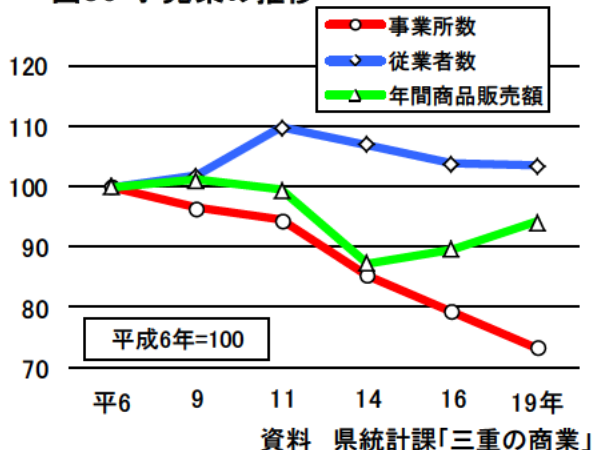


図36 小売業の推移

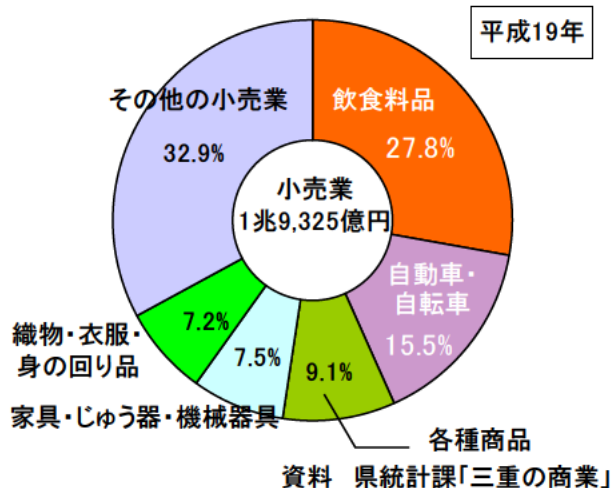
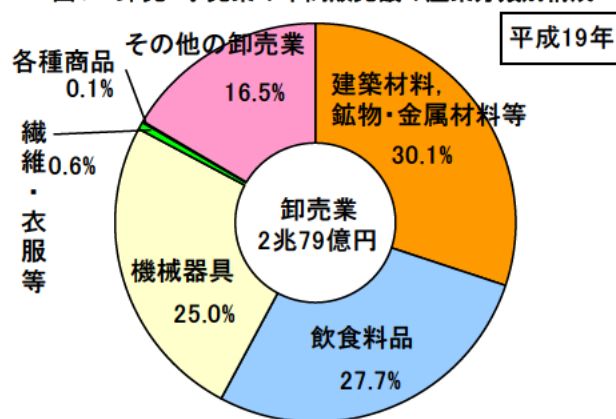


業種別年間商品販売額

年間商品販売額を業種別にみると、卸売業は建築材料、鉱物・金属材料等卸売業6,043億円で最も多く、卸売業年間商品販売額の30.1%を占めており、以下、飲食料品卸売業5,558億円（構成比27.7%）、機械器具卸売業5,022億円（同25.0%）と続いています。

小売業は、飲食料品小売業が5,371億円で小売業年間商品販売額の27.8%を占めており、次いで自動車・自転車小売業2,992億円（構成比15.5%）などとなっています。

図37 卸売・小売業の年間販売額の産業分類別構成



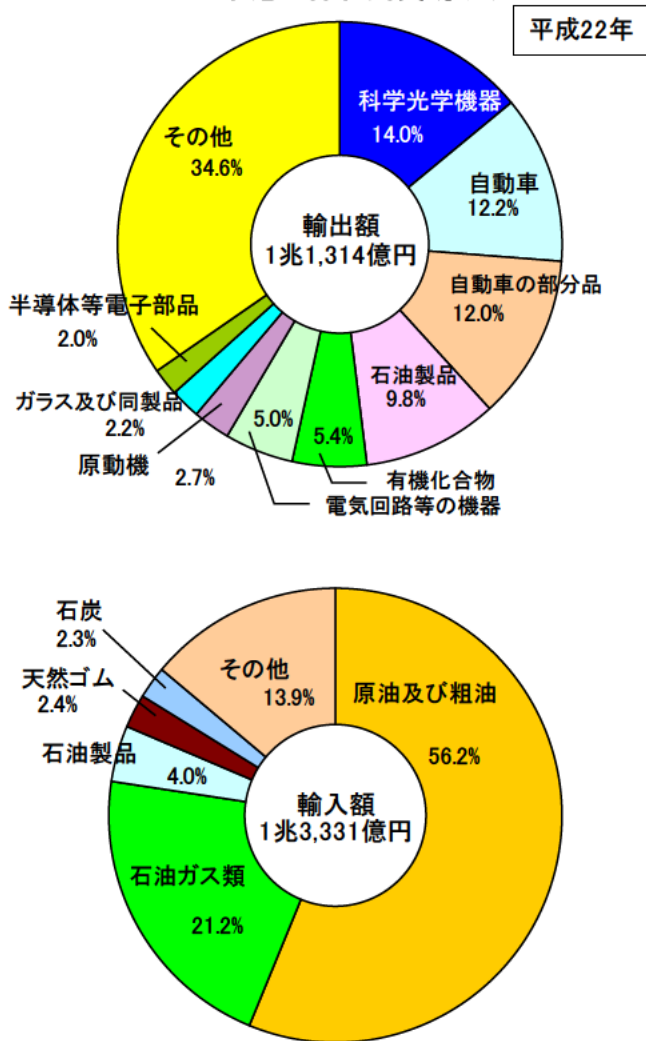
貿易

輸出・輸入ともに本県の大半を占める四日市港の平成22年の貿易状況を見ると、輸出額は1兆1,314億円で前年に比べ1,290億円(12.9%)、輸入額は1兆3,331億円で前年に比べ2,216億円(19.9%)増加しました。

品目別で見ると、輸出は科学光学機器が1,588億円(構成比14.0%)で最も多く、次いで自動車1,382億円(同12.2%)、自動車の部品品が1,361億円(同12.0%)の順となっています。

輸入は原油及び粗油が7,490億円(構成比56.2%)で最も多く、次いで石油ガス類が2,821億円(構成比21.2%)、石油製品が539億円(同4.0%)の順となっています。

図38 四日市港の品目別貿易状況



資料 名古屋税関「貿易年表」

金融

平成23年3月31日現在の預貯金残高(郵便貯金を除く)は、10兆6,484億円となり、前年に比べ2,163億円(2.1%)増加しました。貸出残高は、4兆8,065億円となり前年に比べ338億円(0.7%)減少しました。

平成23年の企業倒産件数は、105件となり前年に比べ29件(21.6%)減少しました。負債総額は312億円(101.4%)増え、619億円と倍増しました。

図39 預貯金・貸出残高の推移

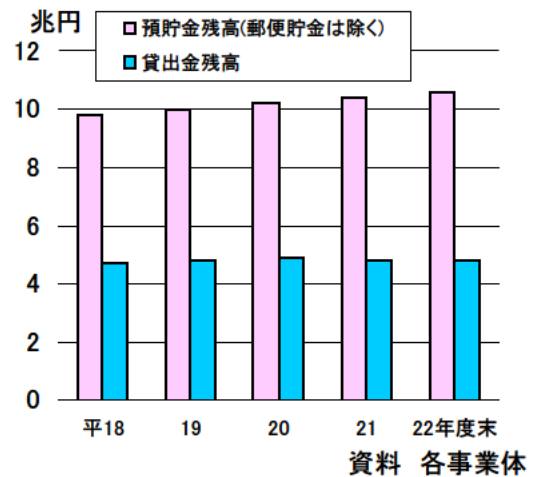
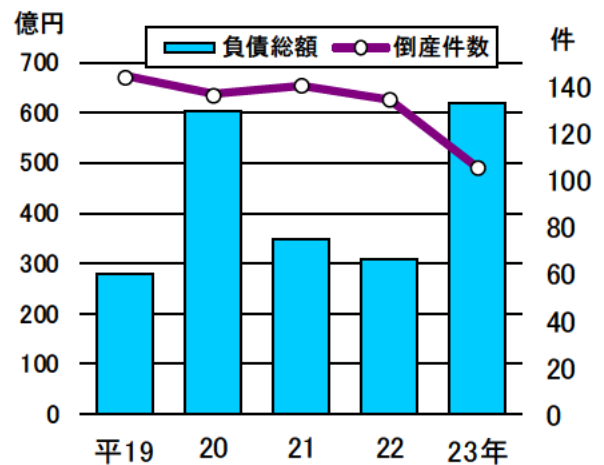


図40 企業倒産状況の推移



資料 (株)東京商工リサーチ津支店